

町内遺跡発掘調査報告書

毛作第1遺跡確認調査

持田遺跡確認調査

持田古墳群古墳範囲確認調査4

2006. 3

宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会

序

本書は、高鍋町教育委員会が平成17年度に実施した町内2ヶ所における開発事業に伴う事前の確認調査と、高鍋町大字持田に所在する国指定史跡持田古墳群のうち円墳5基について古墳範囲確認調査を実施した確認調査の成果を収録したものです。持田古墳群古墳範囲確認調査は、本年度で第4年次の調査となり、数多くの資料を得ることができました。

本書が、文化財の保護に対する認識と理解、さらには学術研究上に役立つとともに、生涯学習や学校教育などにおいて郷土の歴史を学ぶ教材として広く活用いただきますれば幸甚に存じます。

毛作第1遺跡確認調査、持田遺跡確認調査、持田古墳群古墳範囲確認調査のそれぞれの調査におきましては、事業者、地権者、耕作者のみなさまをはじめ多くの関係者のみなさまには暖かいご理解と多大なるご協力を賜りました。心から感謝の意を表する次第であります。

平成18年3月

高鍋町教育委員会
教育長 三重野 保

例　　言

1. 本書は、毛作第1遺跡確認調査、持田遺跡確認調査及び、国指定史跡持田古墳群の第24号墳・第50号墳・第57号墳・第59号墳・第84号墳の古墳範囲確認調査についての発掘調査報告書である。

2. 調査は、平成17年度に国庫補助金、県費補助金を得て、高鍋町教育委員会が実施した。

3. 調査の組織

調査の主体 高鍋町教育委員会

　　教育長 三重野保

　　社会教育課課長 壱岐昌敏

　　同 課長補佐 三嶋俊宏

　　同 文化財係係長 山本格（調査担当）

　　同 文化財係主査 小澤宏之

調査指導 宮崎県教育庁文化財課

特別調査員 德島文理大学文学部助教授 大久保徹也（持田古墳群範囲確認調査）

4. 図面の作成は、山本が行なった。

5. 遺物・図面の整理は、高鍋町教育委員会において、山本が行い整理作業員がこれを補助した。

6. 本書に使用した写真は、山本が撮影した。空中写真については(有)スカイサーバイ九州に委託した。

7. 本書に使用した座標（緯度・経度）は、測地成果2000で、土地家屋調査士徳田公生に委託した。

8. 本書に使用した方位は磁北で、高さは、海拔絶対高である。

9. 本書の編集・執筆は、山本がおこなった。

総 目 次

毛作第1遺跡確認調査

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査にいたる経緯.....	1
第2節 立地と環境	1
第2章 調査の概要.....	3
第1節 調査の概要	3
第3章 まとめ.....	3
挿図目次 第1図 調査地位置及び周辺遺跡分布図（1／10,000）	2
第2図 調査地内トレンチ位置図（1／200）	4
図版目次 図版1 調査区全景、1号、2号、3号、4号トレンチ	5

持田遺跡確認調査

本文目次

第1章 はじめに	9
第1節 調査にいたる経緯.....	9
第2節 立地と環境	9
第2章 調査の概要.....	11
第1節 調査の概要	11
第3章 まとめ.....	11
挿図目次 第1図 調査地位置及び周辺遺跡分布図（1／5,000）	10
第2図 調査地内トレンチ位置図（1／200）	12
図版目次 図版1 調査区全景、1号、2号、3号、4号トレンチ	13

持田古墳群古墳範囲確認調査 4

本文目次

第1章 はじめに	17
第1節 調査にいたる経緯.....	17
第2節 立地と環境	17
第2章 調査の概要.....	19
第1節 調査の概要	19
第2節 第24号古墳	20
第3節 第50号古墳	20
第4節 第57号古墳	20
第5節 第59号古墳	22
第6節 第84号古墳	24

第3章	まとめ	24
挿図目次		
第1図	調査地付近遺跡分布図（1／10,000）	18
第2図	調査地位置図（1／5,000）	19
第3図	第24号墳調査トレンチ位置図及び遺構図（1／200）	21
第4図	第50号墳調査トレンチ位置図及び遺構図（1／200）	21
第5図	第57号墳調査トレンチ位置図及び遺構図（1／200）	22
第6図	第59号墳調査トレンチ位置図及び遺構図（1／200）	23
第7図	第84号墳調査トレンチ位置図及び遺構図（1／200）	23
図版目次		
図版1	第24号墳 全景、1号、2号、3号、4号、5号、 6号トレンチ	25
図版2	第50号墳 全景、1号、2号、3号、4号、5号トレンチ	26
図版3	第57号墳 全景、1号、2号、3号、4号トレンチ	27
図版4	第59号墳 全景、1号、2号、3号、4号トレンチ	28
図版5	第84号墳 全景、1号2号、3号、4号、5号、 6号トレンチ	29
調査抄録		31

毛作第1遺跡確認調査

第1章 はじめに

第1節 調査にいたる経緯

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋字毛作8617番地1において、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州による第一種電気通信事業施設（南高鍋基地局）の建設設計画があった。事業が予定されていたのは周知の埋蔵文化財包蔵地「毛作第1遺跡」内であった。

平成17年4月に施設建設位置が決定され、事業者と高鍋町教育委員会では、同地の埋蔵文化財について協議を行った。工事予定地における埋蔵文化財の所在の状況とその性格を把握するために、高鍋町教育委員会が確認調査を実施することになった。

第2節 立地と環境

高鍋町は、東に日向灘に面し、町の中心部がある海拔約10m未満の沖積平野を北方・西方・南方から海拔約50mから約70mの洪積台地に取り囲まれた地形をしている。この沖積平野の北東から南西に小丸川が流れ、平野の南辺には西から宮田川が流れ日向灘にそいでいる。

当地は、高鍋の沖積平野の南面にせまる洪積台地の縁辺にあたり、北方には宮田川の形成した谷が位置している。

この付近は、毛作原とよばれる台地面で弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が数多く分布している。調査地の南西約400mの「毛作第4遺跡」内では、平成14年度に高鍋町教育委員会が実施した毛作第4遺跡発掘調査において、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡が密集していることが確認でき、この時代には集落が営まれていたことがうかがえる。（注1）

また、調査地の南南西には約500mを隔てた場所には円墳4基が所在する。この古墳群は、昭和12年7月2日に宮崎県指定史跡「高鍋町古墳」第2号墳から第5号墳として指定され保存されている。この付近は小字名を四ツ塚といい、この古墳群との関連が考えられる。

さらに、調査地の東約500mの台地斜面には7基の光音寺横穴墓群があり、宮崎県教育委員会により調査されている。（注2）

中世に財部（現、高鍋）を治めた財部土持氏が財部城に居城した。康正二年（1456）に財部土持氏は、この毛作原付近において都於郡領主伊東氏と合戦し敗北している。

その後、江戸時代には、高鍋藩主秋月氏の所領となり、城下から南方に通じる主要道が、当調査地の東方約300mのところに残っている。

【参考文献】

『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』 1989 高鍋町教育委員会

注1 『高鍋町埋蔵文化財調査報告書第9集 町内遺跡発掘調査報告書』 2003 高鍋町教育委員会

注2 石川恒太郎「高鍋町光音寺横穴調査報告書」『宮崎県文化財調査報告書第17集』

・『宮崎県文化財調査報告書第18集』 1973 宮崎県教育委員会



- | | | |
|-------------|-------------|-------------------|
| 1 調査地 | 2 毛作第1遺跡 | 3 毛作第3遺跡 |
| 4 毛作第4遺跡 | 5 平成14年度調査地 | 6 山伏山第1遺跡 |
| 7 山伏山第2遺跡 | 8 毛作第2遺跡 | 9 毛作古墳群(県史跡高鍋町古墳) |
| 10 四ツ塚遺跡 | 11 光音寺横穴墓 | 12 高鍋(財部)城跡 |
| 13 大戸ノ口第3遺跡 | | |

第1図 調査地位置及び周辺遺跡分布図 (1/10,000)

第2章 調査の概要

第1節 調査の概要

今回の調査地は、毛作第1遺跡範囲の西端に位置し、西側にある毛作第3遺跡に隣接する。当地は標高は約76mである。

調査は、平成17年4月11日から4月22日まで実施し、トレンチによる調査面積は約15m²である。

調査対象地は、事業予定地のなかで掘削区域となる縦約10m、横約10mとし、この区域内に縦2.5m、横1.5mのトレンチを4ヶ所設定し、遺構・遺物の所在について調査した。

1号トレンチは、調査区の北西に設定した。地表面から約70cmの箇所で北辺部にてアカホヤ火山灰層を検出したがその他の部分は地表下約120cmまで攪乱を受けていた。

2号トレンチは、調査区の南西に設定した。地表面から約40cmの箇所で全面にてアカホヤ火山灰層を検出した。地層は良好に遺存し、地表下約110cmまで調査した。

3号トレンチは、調査区の北東に設定した。地表面から約110cmまで攪乱を受けていた。

4号トレンチは、調査区の南東に設定した。地表面から約40cmの箇所でアカホヤ火山灰層を検出した。この面にて、およそ東西に通る幅約80cm、深さ約60cmで断面が方形の溝状の遺構を確認した。ここには土器片の流入がみられた。

第3章 まとめ

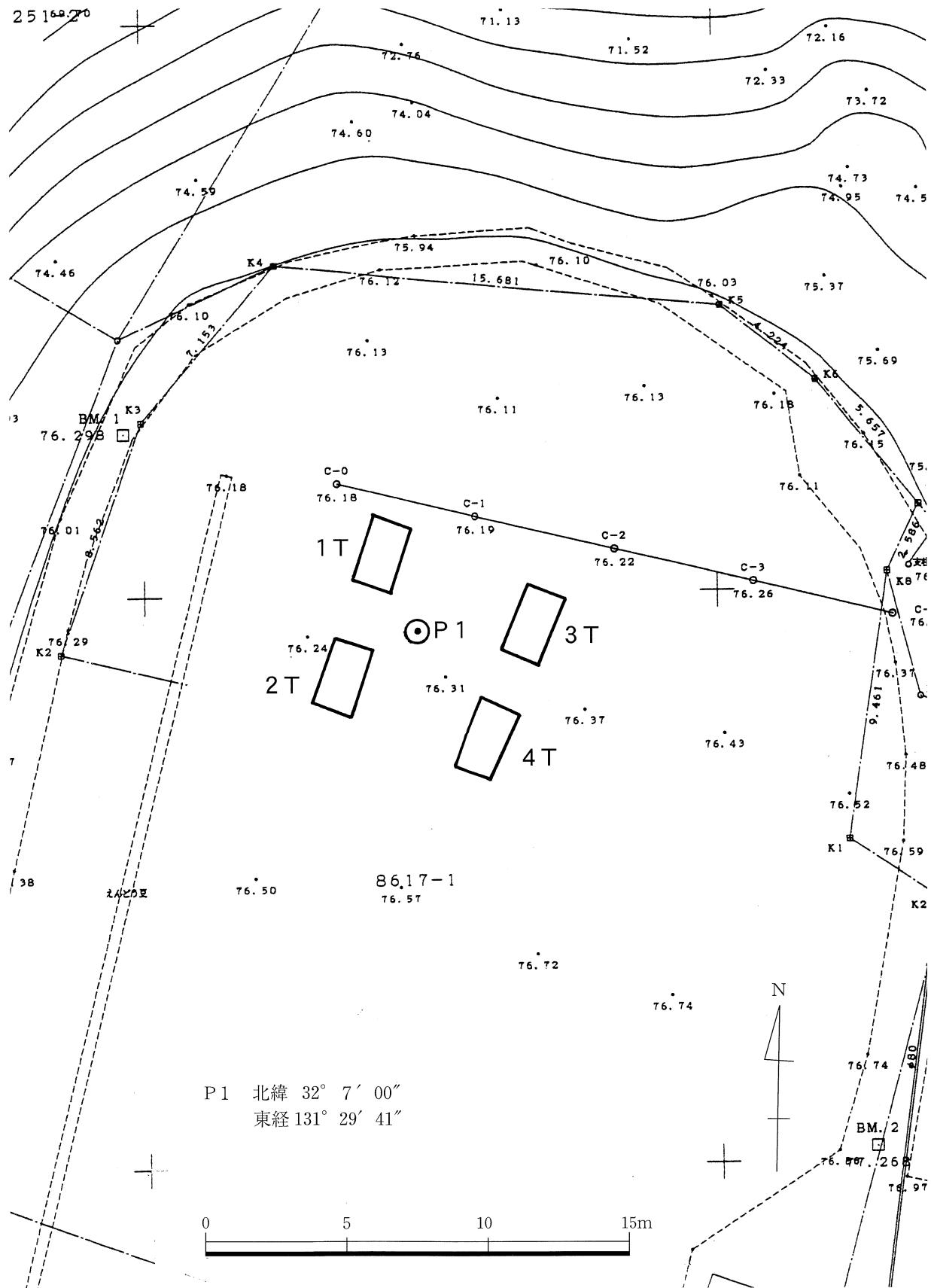
確認調査で設定した4ヶ所のトレンチのうち北側にあたる、1号・3号トレンチでは、地層の攪乱がみられた。土器片の出土もみられたがあわせて現代の物品も混在していた。

付近の方の話によると、かつては現況の畑より下壇にも畑が営まれており、その後の造成により現在の畑にしたとのことであった。

また、設定した4ヶ所のトレンチのうち南側にあたる、2号・4号トレンチでは、地層は良好な状態であったが、耕作土から土器片が出土していた。また、4号トレンチで確認された溝は、その形状から、畑に芋などを一時貯蔵するために掘削された現代のものであるとみられる。

今回の調査では、当地及び付近の畑地にて土器片が地表面にて採集されたが、調査の結果、工事着手前にその保存について協議を要する遺構の所在は確認されなかった。

今回の調査地の付近には、同地で採集された土器片と関連のある遺跡の所在が考えられるため、将来に調査の機会を得た際には、今回の結果を活用したい。

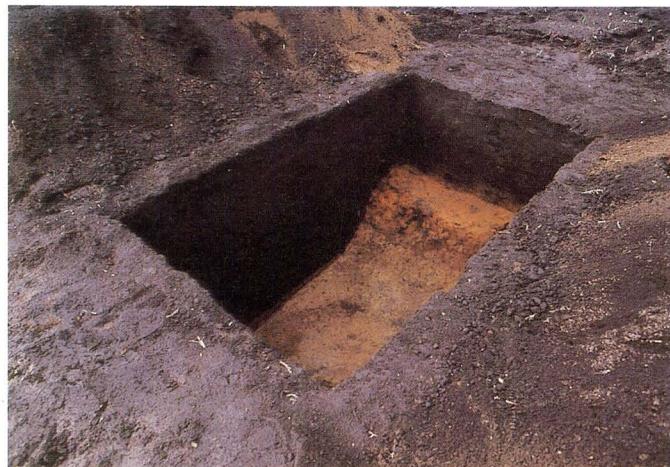


第2図 調査地内トレンチ位置図 (1/200)

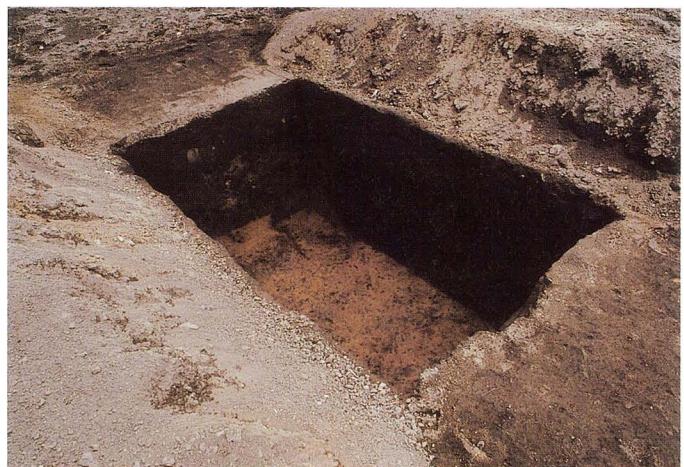


調査区全景
(南西から)

- 1号トレンチ（左奥）
- 2号トレンチ（左前）
- 3号トレンチ（右奥）
- 4号トレンチ（右前）



1号トレンチ（南東から）



3号トレンチ（南西から）



2号トレンチ（北東から）



4号トレンチ（北西から）

持田遺跡確認調査

第1章 はじめに

第1節 調査にいたる経緯

宮崎県児湯郡高鍋町大字持田字計塚5446番1において、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州による第一種電気通信事業施設（持田基地局）の建設設計画があった。事業が予定されていたのは周知の埋蔵文化財包蔵地「持田遺跡」内であった。

平成17年4月に施設建設位置が決定され、事業者と高鍋町教育委員会では、同地の埋蔵文化財保存について協議を行った。工事予定地における埋蔵文化財の所在の状況とその性格を把握し、協議の資料を得るために、高鍋町教育委員会が確認調査を実施することになった。

第2節 立地と環境

高鍋町は、東に日向灘に面し、町の中心部がある海拔約10m未満の沖積平野を北方・西方・南方から海拔約50mから約70mの洪積台地に取り囲まれた地形をしている。この沖積平野を九州山地に発した小丸川おまるが北西から南東に流れ日向灘にそいでいる。

当地は、小丸川の北岸の標高約50mの洪積台地縁辺にあたり、この台地は北方の川南台地から続いている。高鍋の市街地が一望できる場所である。

今回の調査対象地は、国指定史跡「持田古墳群」の東端に位置する第1号墳で同古墳群最大の前方後円墳である計塚の北西に約250mを隔てた位置である。当地はまた、持田遺跡の西端にも位置している。持田遺跡は、持田古墳群の主群の所在する台地面とその分布範囲を同じとする遺跡であり、弥生時代後期の住居跡が確認されている。

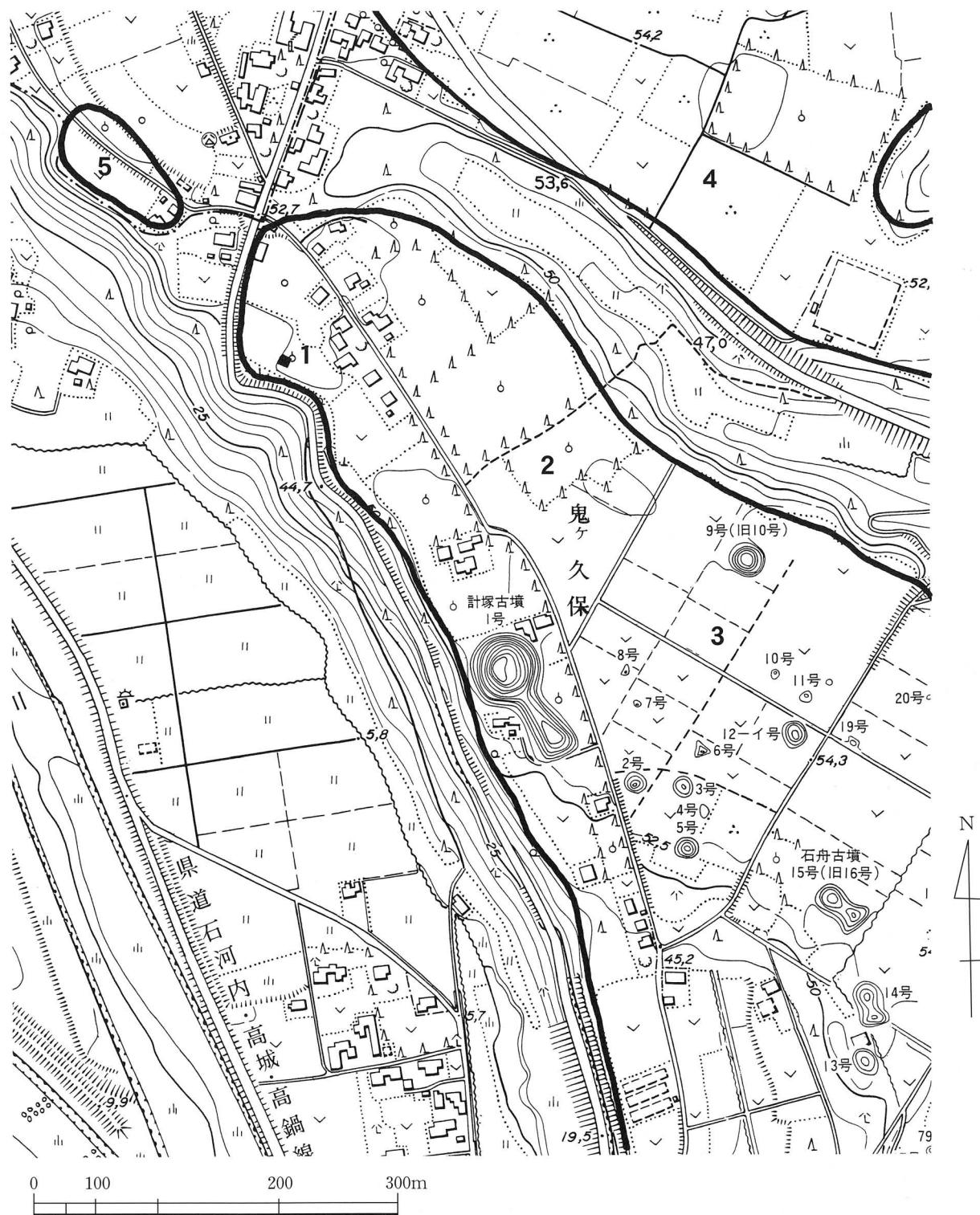
当地の北方に生ずる谷を隔て北東へ約400mには縄文時代から弥生時代の散布地である下り松遺跡がある。

また、当地から北西へ約200mを隔てた場所には川南町の鬼ヶ久保遺跡があり弥生時代から古墳時代にかけての散布地である。さらに、この台地縁辺に沿い北西へ約2.5kmを隔てた場所には、国指定史跡の川南古墳群がある。

【参考文献】

『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』 1989 高鍋町教育委員会

『川南町の埋蔵文化財～遺跡詳細分布調査報告書～』 1983 川南町教育委員会



1 調査地
4 下り松遺跡

2 持田遺跡
5 鬼ヶ久保遺跡

3 持田古墳群

第1図 調査地位置及び周辺遺跡分布図 (1 / 5,000)

第2章 調査の概要

第1節 調査の概要

今回の調査地は、持田遺跡範囲の西端に位置し、当地の標高は約54mである。

調査は、平成17年4月11日から5月9日までの間で実施し、トレンチによる調査面積は約15.5m²である。

調査対象地は、事業予定地のなかで掘削区域となる縦約10m、横約10mとし、この区域内に縦2.5m、横1.5mを標準としてトレンチを4ヶ所設定し、遺構・遺物の状況について調査した。

1号トレンチは、調査区の北部に設定した。地表面から約60cmの箇所で東隅にてアカホヤ火山灰層を検出したがその他の部分は黒色土で、同色で溝とみられる遺構が確認できた。須恵器片が出土した。

2号トレンチは、調査区の西部に設定した。地表面から約40cmの箇所でアカホヤ火山灰層を検出した。この面は均一でなく遺構とみられる濃褐色土域があり、磨石が出土した。西隅を縦約90cm、横約80cmの規模でアカホヤ火山灰層の下層の黒褐色土層を調査した結果、礫がまとまって確認できた。

3号トレンチは、調査区の東部に設定した。地表面から約40cmの箇所でアカホヤ火山灰層を検出した。この面の西隅に黒色土域があり、縦1m、横0.5mの範囲を拡張し、方形を示す遺構を確認した。須恵器片も出土した。同トレンチの東辺にてアカホヤ火山灰層の下層の黒褐色土層を調査した結果、礫がまとまって確認できた。

4号トレンチは、調査区の南部に設定した。地表面から約40cmの箇所でアカホヤ火山灰層を検出した。この面は均一でなく遺構とみられる濃褐色土域があり、磨石が出土した。東隅に溝状の遺構を確認した。

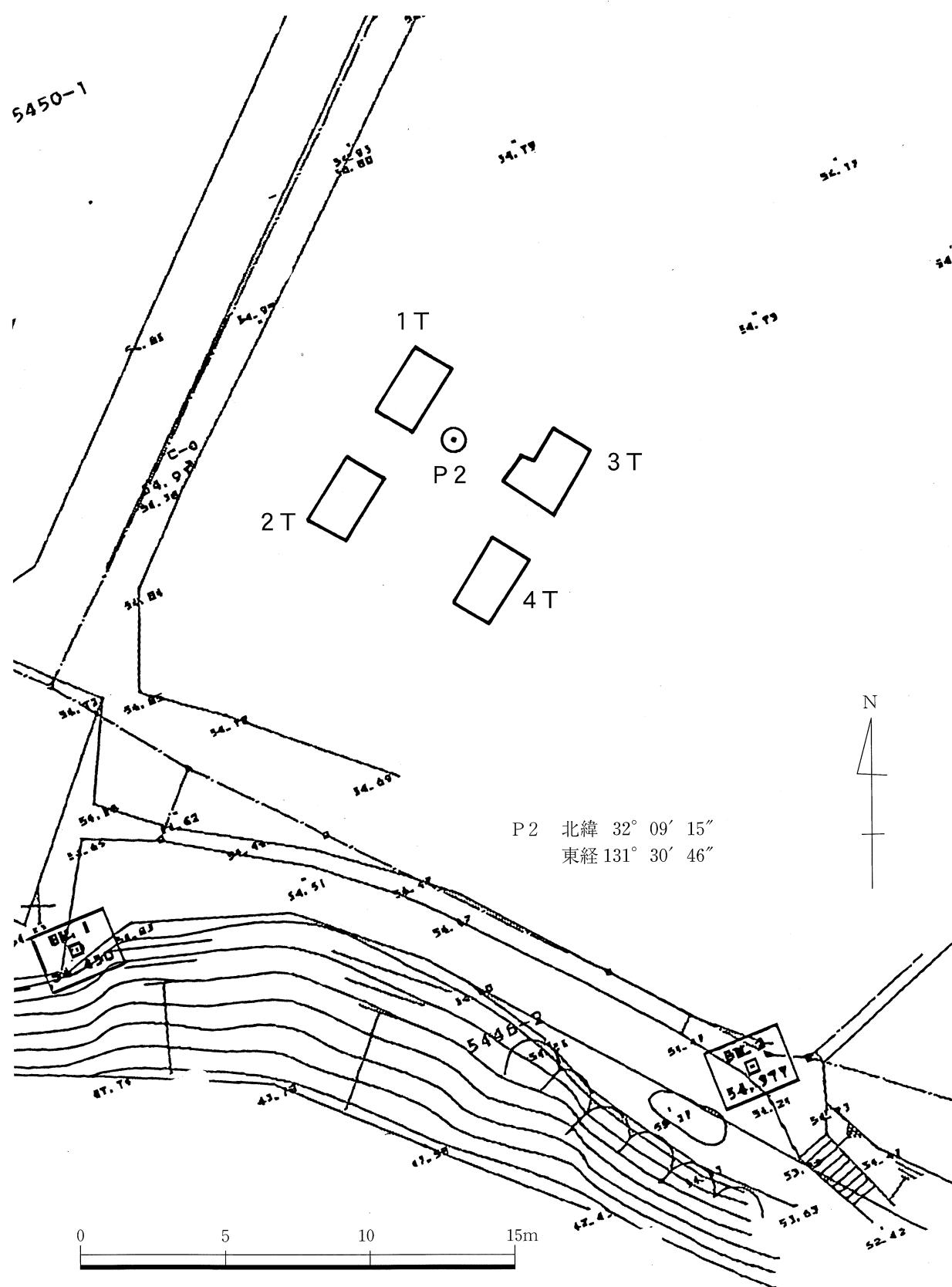
第3章 まとめ

確認調査で設定した4ヶ所のトレンチからは、アカホヤ火山灰層の面において遺構とみられる箇所があり磨石や須恵器片などが出土した。特に3号トレンチでは、住居跡とみられる遺構の一部が確認できた。1号トレンチでの一面の黒色土の箇所も遺構の可能性がある。

また、1号、3号トレンチで確認したアカホヤ火山灰層の下層にみられた礫群の所在も確認できた。

これらのことから、当地には、古墳時代から弥生時代の可能性がある遺構と、縄文時代の遺構が所在する可能性を示す資料を得た。

当地については、事業者と埋蔵文化財の保存について協議を行った。その結果、事業予定地の変更が困難なことからやむを得ず埋蔵文化財については発掘調査を実施し、記録保存の措置をとることになった。



第2図 調査地内トレンチ位置図 (1/200)

図版 1



調査区全景
(北東から)

- 1号トレンチ（右前）
- 2号トレンチ（右奥）
- 3号トレンチ（左前）
- 4号トレンチ（左奥）



1号トレンチ（南から）



3号トレンチ（南西から）



2号トレンチ（東から）



4号トレンチ（北から）

持田古墳群古墳範囲確認調査 4

第1章 はじめに

第1節 調査にいたる経緯

宮崎県児湯郡高鍋町大字持田には、昭和36年2月25日に国の史跡指定を受けた持田古墳群がある。この古墳群を保存し公開することを目的として、平成13年度に高鍋町教育委員会が、持田古墳群整備計画書を策定した。この計画書は、同古墳群の長期にわたる整備基本計画である。

この計画をもとに、平成14年度から古墳群の整備に必要な基礎資料の収集を実施している。平成16年度までに11基の円墳について範囲確認調査を実施した。今年度は、その第4年次の調査で、5基の円墳について古墳範囲確認調査を実施することになった。

第2節 立地と環境

高鍋町は、東に日向灘に面し、市街地がひろがる海拔約10m未満の沖積平野を北・西・南から、海拔約50mから約70mの洪積台地が取り囲む地形をしている。この沖積平野を九州山地に発した小丸川が北東から南東に貫流し日向灘にそそぐ。

持田古墳群の主群は、この沖積平野の北辺で小丸川の北岸にあたる標高約60mの洪積台地の縁辺に位置しており、台地面に発生した沢がつくる谷が北から東へ走り、舌状に張り出す台地面に位置する。ここには、前方後円墳9基と円墳60基が分布する。この台地面には、持田遺跡として周知され弥生時代末期の住居跡も確認されている。

持田台地の舌状の南端には、持田中尾遺跡が知られる。旧石器、縄文、弥生前期～後期、古墳時代にわたる遺跡で、弥生時代の竪穴式住居跡2軒、割竹形木棺をもつ円墳が調査された。

同台地の東の谷を隔てた対岸の台地面には、上ノ別府遺跡があり、古墳時代後期の竪穴式住居跡9軒が検出された。同台地の北の谷を隔てた対岸の台地面には、下り松遺跡があり、縄文から弥生時代の遺跡として周知されている。

さらに、同台地の東端の裾部の微高の平坦面は、東光寺遺跡があり、古墳時代の遺跡である。ここには、室町時代の永禄五年（1562）に建立の十三仏板碑（笠塔婆）がある。

江戸時代には、古墳群の西辺の台地縁辺の道を高鍋藩主が参勤交代に往来した。

【参考文献】

『お染ヶ岡特殊農地保全事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1979 宮崎県教育委員会

『持田中尾遺跡』 1982 高鍋町教育委員会

『高鍋町史』 1987 高鍋町教育委員会

『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』 1989 高鍋町教育委員会



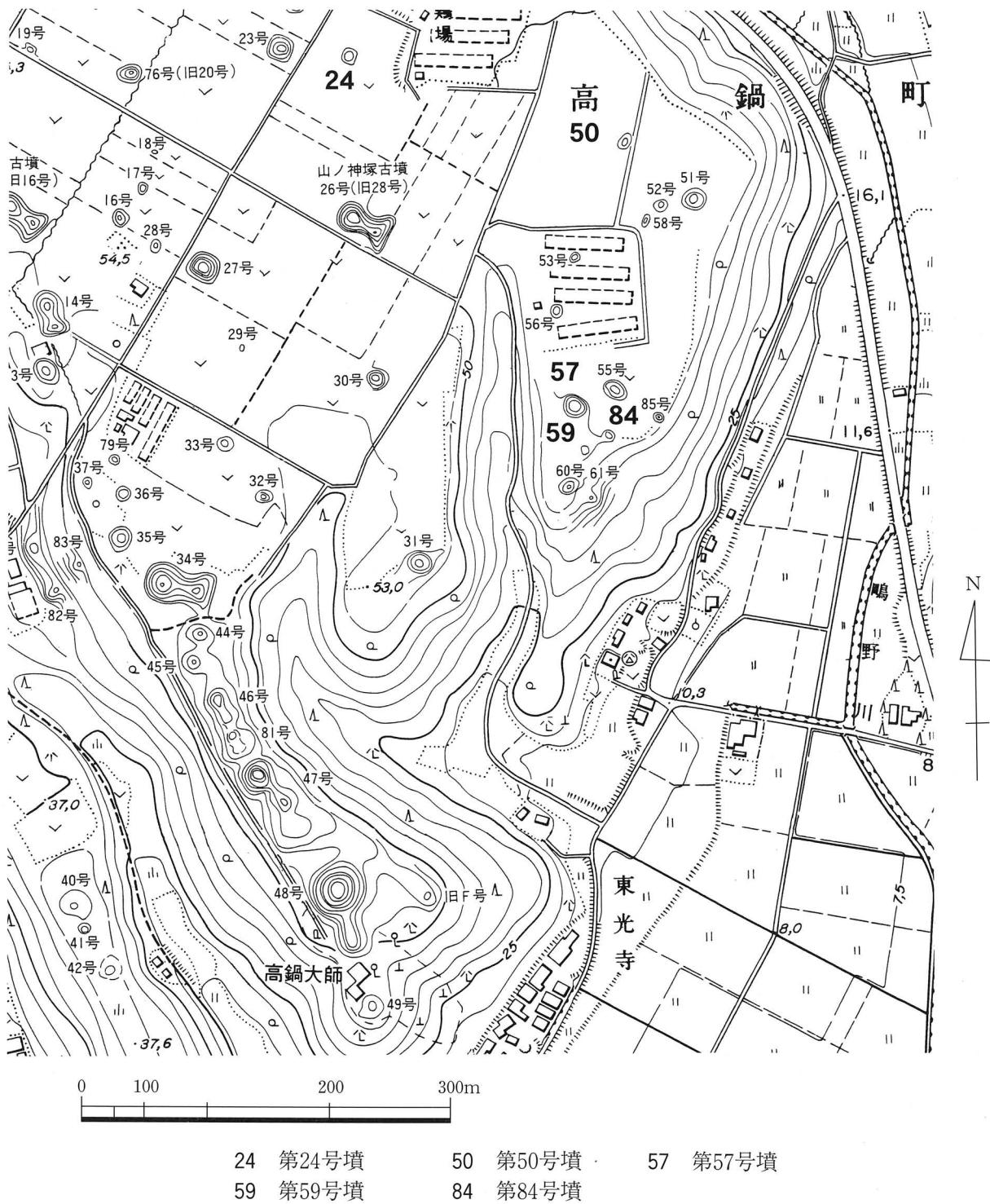
1 持田古墳群・持田遺跡 2 持田中尾遺跡 3 東光寺遺跡
4 上ノ別府遺跡 5 下り松遺跡

第1図 調査地付近遺跡分布図 (1/10,000)

第2章 調査の概要

第1節 調査の概要

古墳範囲確認調査は、円墳5基で、第24号古墳、第50号古墳、第57号古墳、第59号古墳、第84号古墳、について墳丘の周囲を調査対象とした。3基の古墳については道路、農作物等によりトレンチを設定できない箇所もあった。調査の期間は、平成17年12月15日に開始し、平成18年3月17日に終了した。確認調査のトレンチ面積は、約141.2m²である。



第2図 調査地位置図 (1/5,000)

第2節 第24号古墳

第24号墳は、現況では約12m×約11mの方形状を示し、墳丘の高さ約2.7mの円墳である。調査のトレンチは、墳丘の周囲4方向に、現況の墳丘のほぼ中心から90度の角度で放射状に設定し、墳丘西面では、先のトレンチ間に45度の角度で各1本のトレンチを設定した。トレンチの幅は1mとし、長さは5mを標準に設定し必要に応じて延長した。設定したトレンチは6本である。併せて、墳丘測量を25cm等高線により実施した。

1号から6号のトレンチのうち、1号～3号、5号、6号トレンチで古墳周溝を確認した。1号トレンチに対応する4号トレンチのみ、耕作土下まで攪乱を受け、周溝底部らしき箇所が確認できた。周溝内からは須恵器片、土師器片が出土した。

周溝検出面での周溝幅は、約1.5mから約2mである。2号トレンチと6号トレンチにて確認できた周溝外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約19mである。

第3節 第50号古墳

第50号墳は、現況で約14.5m×約10mの楕円形状を示し、墳丘の高さ約1.7mの円墳である。墳丘の北東側に道路があるため、調査のトレンチは、墳丘の南西側について、現況の墳丘のほぼ中心から45度の角度で放射状に5本のトレンチを設定した。トレンチの幅は1mとし、長さは5mを標準に設定し必要に応じて延長した。併せて、墳丘測量を25cm等高線により実施した。

1号から5号のトレンチのうち、すべてのトレンチで古墳周溝を確認した。1号トレンチおよび5号トレンチにおいて、2箇所において溝を確認した。周溝と溝の間隔はいずれも約2mであったため、2号、3号トレンチにおいて検出した周溝から墳丘より遠方にトレンチを延長したが1号、5号トレンチで確認された位置に溝は見られなかった。1号トレンチの南にて確認の溝では須恵器片の出土があった。

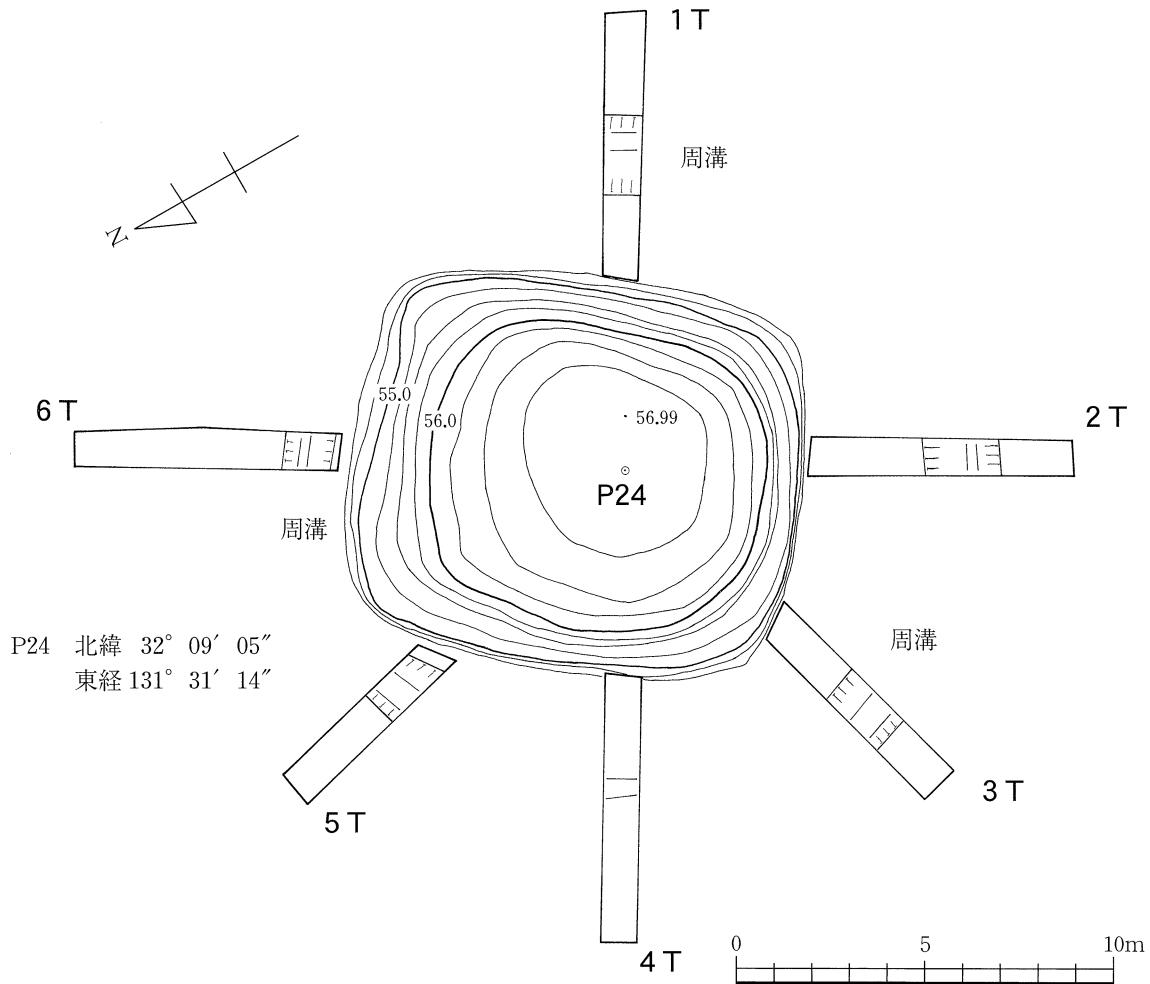
周溝検出面での周溝幅は、約1.7mから約2mである。1号トレンチと5号トレンチにて確認できた周溝（墳丘側）の外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約19mである。

第4節 第57号古墳

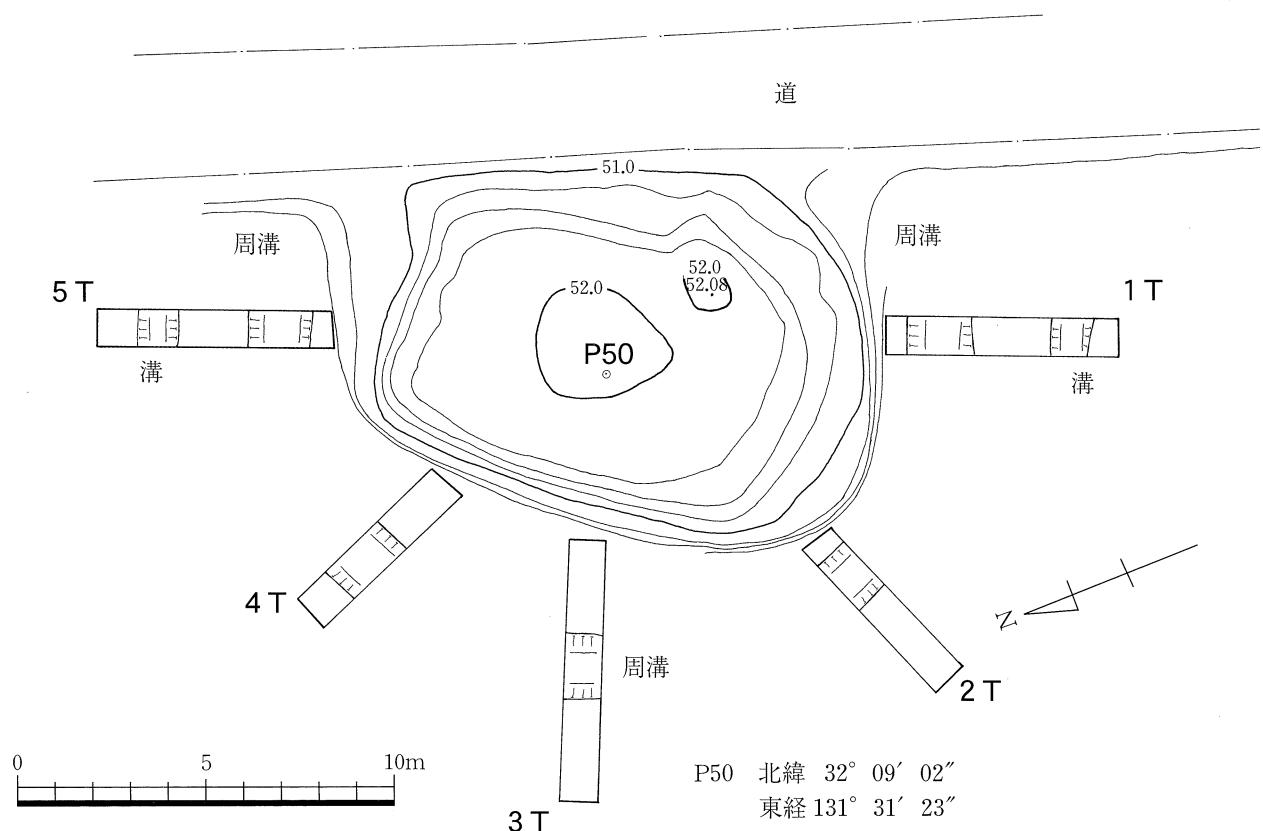
第57号墳は、現況で直径約20m円形状を示し、墳丘の高さ約3.7mの円墳である。墳丘の北東側の畑に農作物があるため、調査のトレンチは、墳丘の南西側について、現況の墳丘の中心から45度の角度で放射状に4本のトレンチを設定した。トレンチの幅は1mを基準とし、長さは5mを標準に設定し必要に応じて延長した。併せて、墳丘測量を25cm等高線により実施した。

1号から4号のトレンチのうち、すべてのトレンチで古墳周溝を確認した。周溝内からは須恵器片、土師器片が出土した。

周溝検出面での周溝幅は、約2.1mから約2.5mである。墳丘を横断する線上に調査トレンチを設定できなかったため、1号と4号のトレンチの検出状況をもとに推測すると周溝外肩間の距離での周溝外郭は直径約26m～27m程度と考えられる。



第3図 第24号墳調査トレンチ位置図及び遺構図 (1/200)



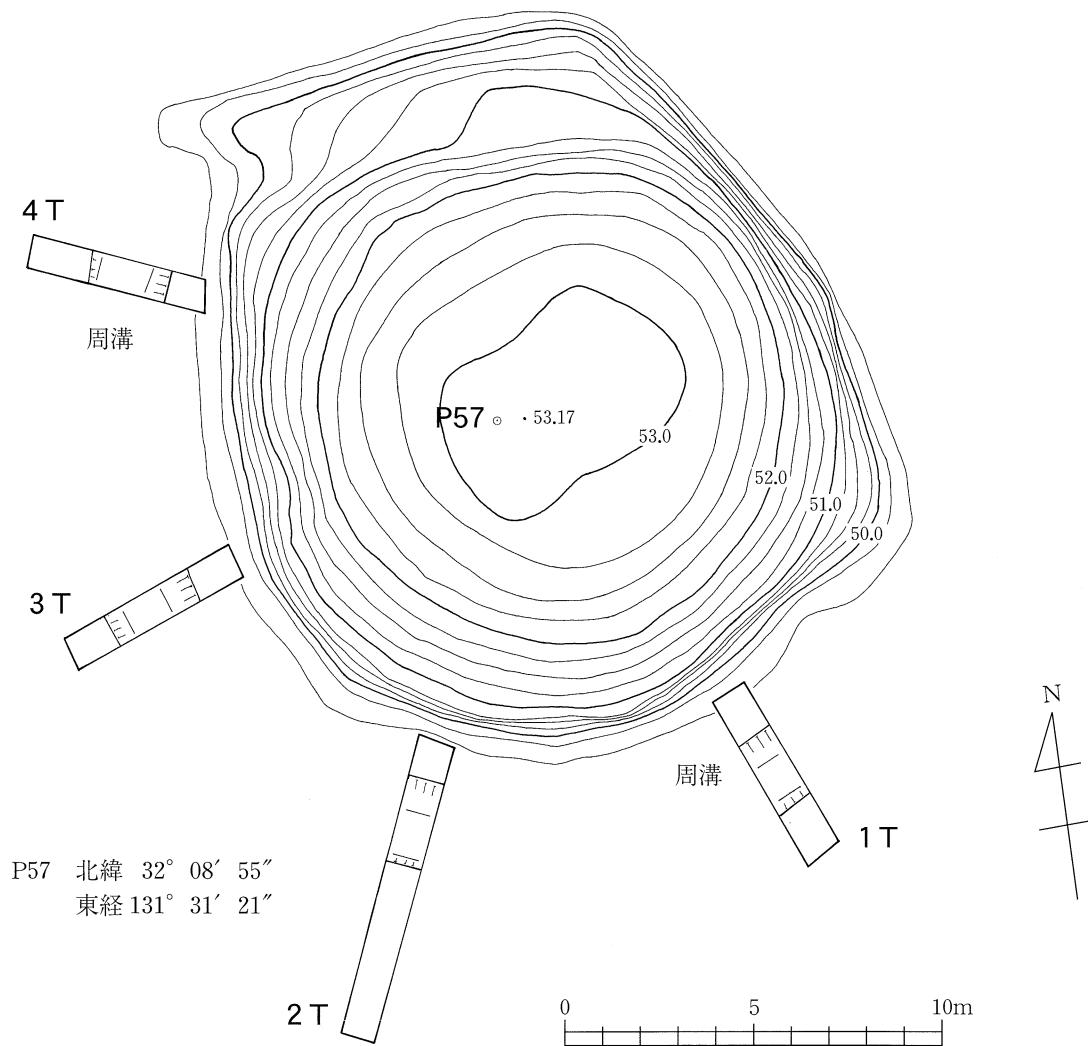
第4図 第50号墳調査トレンチ位置図及び遺構図 (1/200)

第5節 第59号古墳

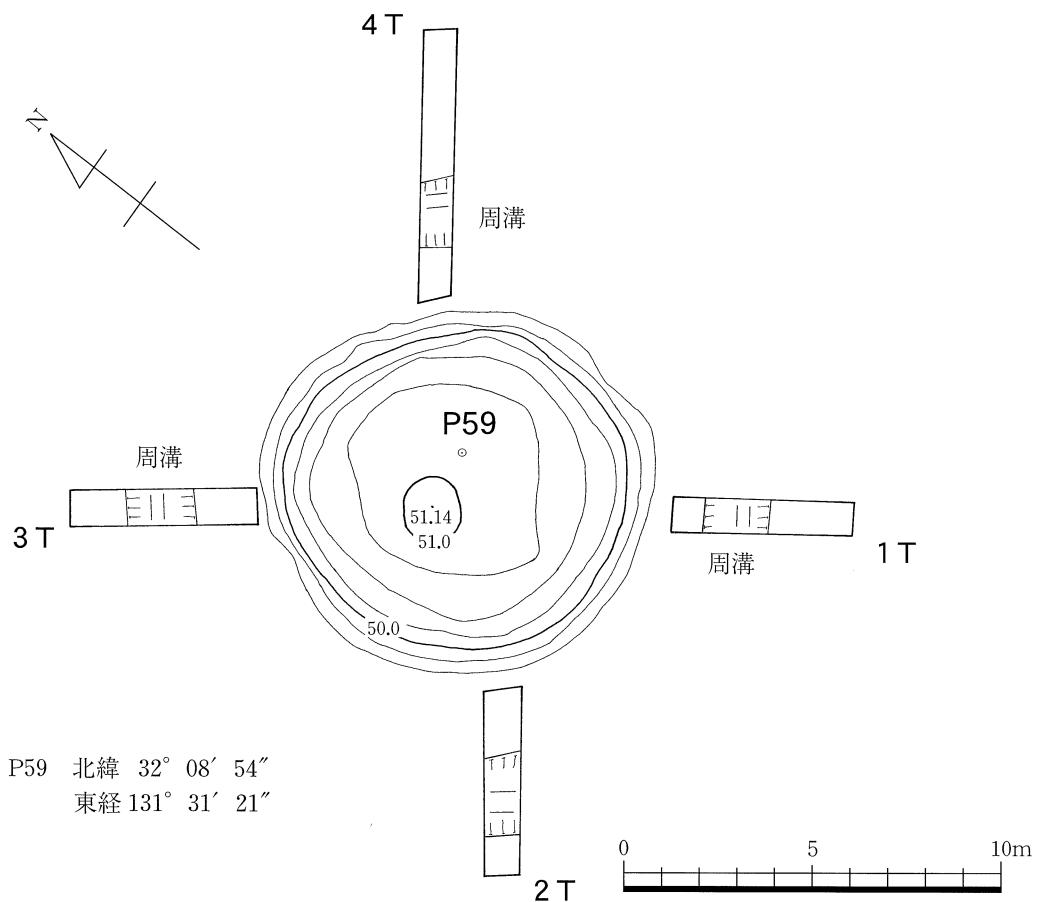
第59号墳は、現況で直径約11m円形状を示し、墳丘の高さ約1.8mの円墳である。調査のトレチは、現況の墳丘の中心から90度の角度で放射状に4本のトレチを設定した。但し、2号と4号トレチは杉木立のため直線上でなく1mずらせて設定した。トレチの幅は1mを基準とし、長さは5mを標準に設定し必要に応じて延長した。併せて、墳丘測量を25cm等高線により実施した。

1号から4号のトレチのうち、すべてのトレチで古墳周溝を確認した。周溝内からは須恵器片、土師器片が出土した。

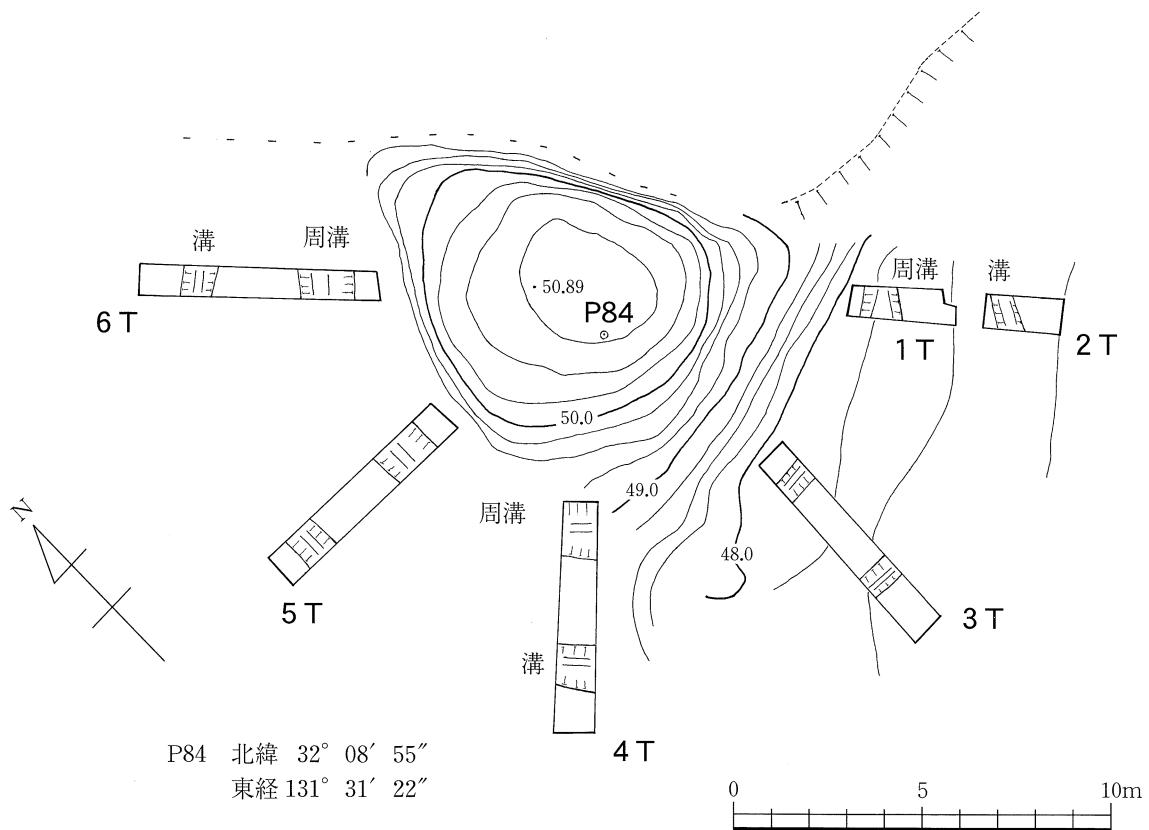
周溝検出面での周溝幅は、約1.8mから約2.2mである。1号トレチと3号トレチにて確認できた周溝外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約17mである。



第5図 第57号墳調査トレチ位置図及び遺構図（1／200）



第6図 第59号墳調査トレンチ位置図及び遺構図 (1/200)



第7図 第84号墳調査トレンチ位置図及び遺構図 (1/200)

第6節 第84号古墳

第84号墳は、現況で約11m×約8mの三角形状を示し、墳丘の高さ約1.7mの円墳である。古墳の南東から南西にかけては谷地形がみられ南方向に緩く傾斜している。その他の方向は平坦である。墳丘の北東側の畠に農作物があるため、調査のトレンチは、墳丘の南西側について、現況の墳丘の中心から45度の角度で放射状に5方向、6本のトレンチを設定した。トレンチの幅は1mを基準とし、長さは5mを標準として設定し必要に応じて延長した。南西方向のトレンチは立木のため2箇所に設定した。併せて、墳丘測量を25cm等高線により実施した。

すべてのトレンチで古墳周溝を確認した。トレンチ内では墳丘の裾部側に周溝を検出し、さらにその先（墳丘から遠方）の箇所でも溝を検出した。1号・2号トレンチを1本のトレンチとみなすと、墳丘から5方向において墳丘裾に周溝がみられ、その外側の約2mから約2.7mの箇所に溝がそれぞれ確認できた。周溝、溝内およびその付近より須恵器片、土師器片が出土した。

周溝検出面での周溝幅は、約0.8mから約1.5mである。1号トレンチと6号トレンチにて確認できた周溝外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約16mである。あわせて、2号トレンチと6号トレンチの間ににおいて古墳周溝の外側で確認した溝外肩間の距離をみると約22mを測る。

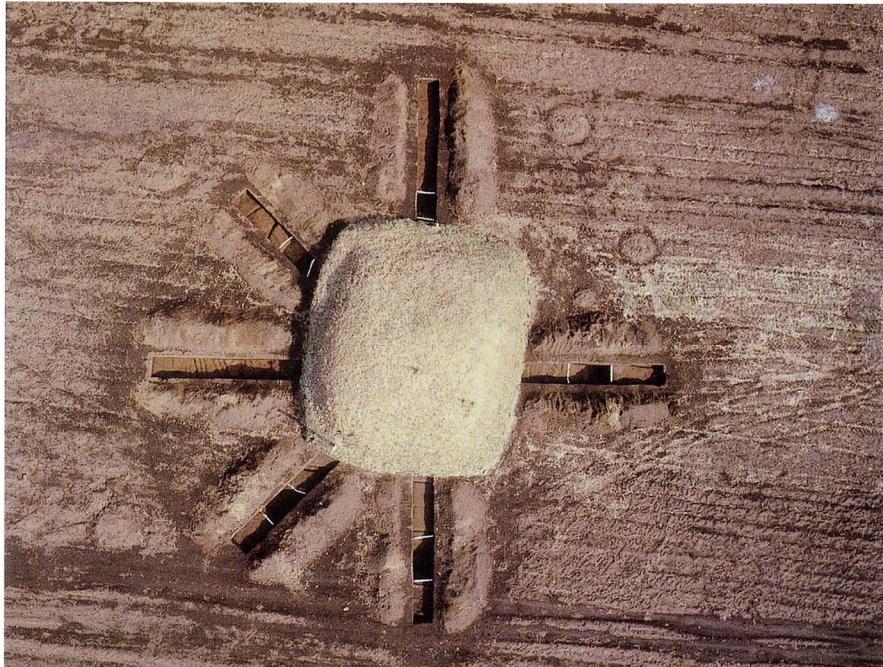
第3章まとめ

今回は、はじめて円墳の群集する区域について調査の機会を得たので、隣接する第57号墳、第59号墳、第84号墳の範囲確認調査を実施した。特に、第84号墳は持田古墳群で唯一の横穴式石室をもつ古墳として、昭和41年に宮崎県教育委員会の委嘱により、天理大学が墳丘測量と石室の調査をおこなった古墳である。今回の範囲確認調査では、この古墳では周溝が二重にめぐる可能性があることが確認できた。ただし、調査が面としての性格でないことと、調査トレンチは古墳周囲の半分についてのみ設定したものであること、全方位において調査したものではないことなどから、二重周溝が存在するものかについては、今後に調査の機会が得られることを期待したい。

今回の古墳範囲確認調査においては、調査した5基の円墳について良好に古墳周溝が遺存していることが確認できた。特に墳丘を横断・縦断する調査トレンチから古墳周溝を確認でき多くの資料を得られたことは大きな成果である。ほ場整備や耕作等の影響のある畠地に所在する古墳周囲についても古墳周溝が確認でき、古墳の規模を考察する貴重な資料を得ることができた。

【参考文献】

『宮崎県史 資料編 考古2』 1993 宮崎県



持田24号墳全景

- 1号トレンチ (右)
- 2号トレンチ (下)
- 3号トレンチ (左下)
- 4号トレンチ (左)
- 5号トレンチ (左上)
- 6号トレンチ (上)



1号トレンチ



4号トレンチ



2号トレンチ



5号トレンチ



3号トレンチ



6号トレンチ

図版2

持田50号墳全景

- 1号トレンチ (右)
2号トレンチ (右下)
3号トレンチ (下)
4号トレンチ (左下)
5号トレンチ (左)



1号トレンチ



4号トレンチ



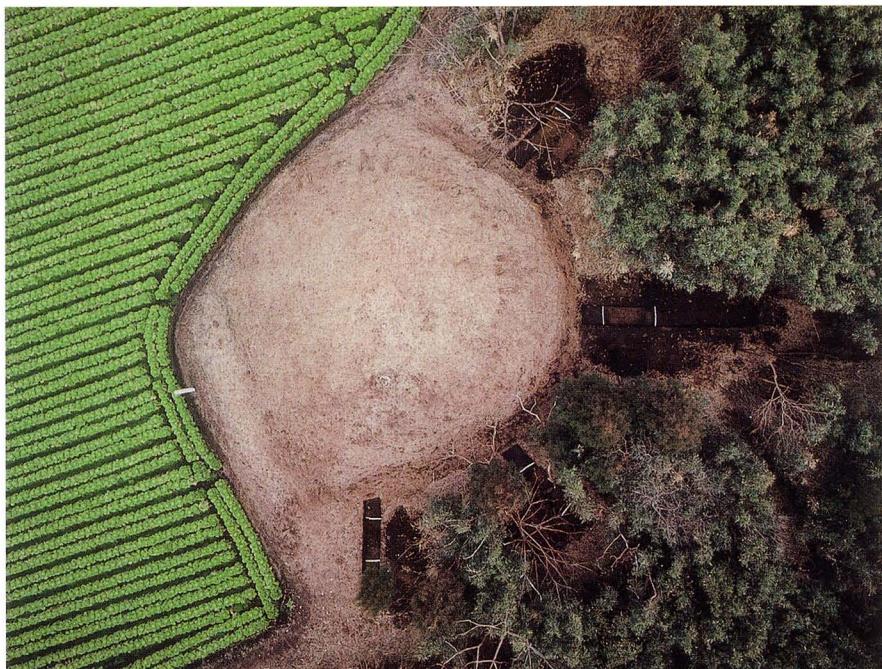
2号トレンチ



5号トレンチ



3号トレンチ



持田57号墳全景

- 1号トレンチ（右上）
- 2号トレンチ（右）
- 3号トレンチ（右下）
- 4号トレンチ（下）



1号トレンチ



3号トレンチ



2号トレンチ



4号トレンチ

図版4

持田59号墳全景

- 1号トレンチ (上)
- 2号トレンチ (右)
- 3号トレンチ (下)
- 4号トレンチ (左)



1号トレンチ



3号トレンチ



2号トレンチ



4号トレンチ

持田84号墳全景

1号・2号トレンチ（右上）
3号トレンチ（右）
4号トレンチ（右下）
5号トレンチ（下）
6号トレンチ（左下）



1号トレンチ（奥） 2号トレンチ（前）



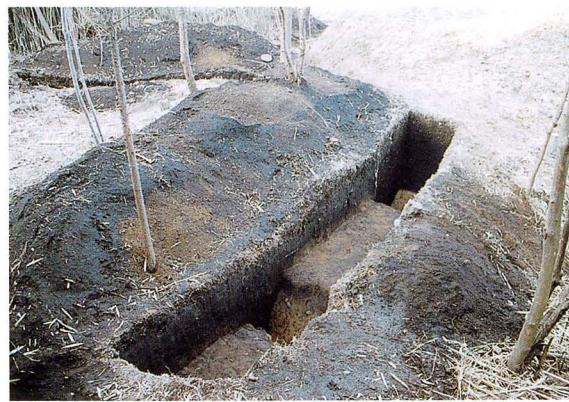
5号トレンチ



3号トレンチ



6号トレンチ



4号トレンチ

調査抄録

ふりがな	ちようないいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	町内遺跡発掘調査報告書							
副書名	毛作第1遺跡確認調査 持田遺跡確認調査 持田古墳群古墳範囲確認調査4							
卷次								
シリーズ名	高鍋町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第13集							
編著者名	山本 格							
発行機関	高鍋町教育委員会							
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8335番地							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯 。' "	東経 。' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市 町村	遺跡 番号					
けつくりだいいち いせき 毛作第1遺跡	たかなべちょうおおあざ 高鍋町大字 みなみたかなべあざ けつくり 南高鍋字毛作	45401	3008	32° 07" 00"	131° 29' 41"	20050411 20050422	15	第1種 電気通信 事業施設
もちだいせき 持田遺跡	たかなべちょうおおあざもちだ 高鍋町大字持田 あざはかりづか 字計塚	45401	1010	32° 09" 15"	131° 30' 46"	20050411 20050509	15.5	第1種 電気通信 事業施設
もちだこふんぐん 持田古墳群 第24号墳 第50号墳 第57号墳 第59号墳 第84号墳	みやざきけん こゆぐん 宮崎県児湯郡 たかなべちょうおおあざもちだ 高鍋町大字持田 あざせきしょ 字関所 あざあわなに 字穴谷	45401	1001	32° 08" 55"	131° 31' 21"	20051215 20060317	141.2	古墳 範囲確認
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
けつくりだいいち いせき 毛作第1遺跡	散布地	弥生～中世		土師器				
もちだいせき 持田遺跡	包蔵地	縄文～古墳		須恵器				
もちだこふんぐん 持田古墳群 第24号墳 第50号墳 第57号墳 第59号墳 第84号墳	古 墳	古 墳	古墳周溝	須恵器 土師器	古墳の周溝が良好に遺存していることを確認。			

高鍋町埋蔵文化財調査報告書 第13集

町内遺跡発掘調査報告書

毛作第1遺跡確認調査

持田遺跡確認調査

持田古墳群古墳範囲確認調査4

2006年3月

編集・発行 宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会
印 刷 (株)印刷センタークロダ
宮崎市大橋2丁目175番地
〒880-0022 電話24-4351番

